

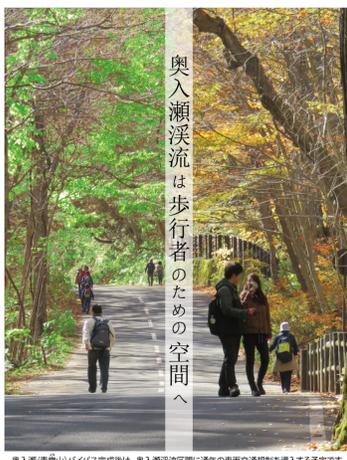
クルマ抑制の意識を促す観光モビリティ・マネジメント ～奥入瀬せせらぎ体感プロジェクト～



奥入瀬溪流沿いの道路、渋滞発生時はすれ違いも困難

“奥入瀬溪流は歩行者のための空間へ”

- ◆ 奥入瀬溪流は、観光時の渋滞、騒音、散策者の危険性、自然環境への影響の問題が存在
- ◆ 奥入瀬溪流を迂回する国道103号奥入瀬（青楓山）バイパスが事業中
- ◆ バイパス完成後は、溪流区間の交通はバイパスに転換
- ◆ 奥入瀬溪流区間は歩行者のための空間として活用（交通規制の導入）
- ◆ 通行規制導入後の姿は、“歩く奥入瀬 天然の自然博物館”



▲“将来の通行規制導入”広報用チラシ

“音”を動機付けとして

- ◆ 奥入瀬溪流の「音」を楽しむことを動機付け、「音」を定量的評価指標化 ※平成29年から実施

MM 交通規制によらない溪流区間への進入自粛を呼びかけ

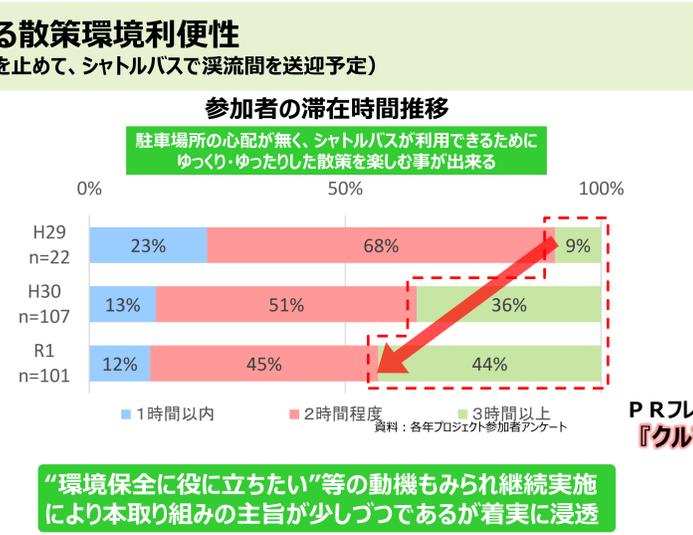
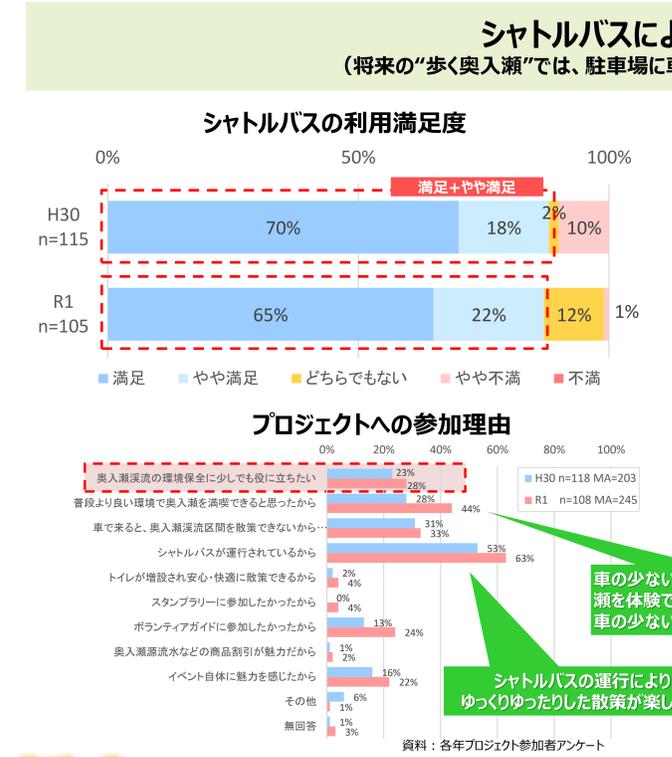
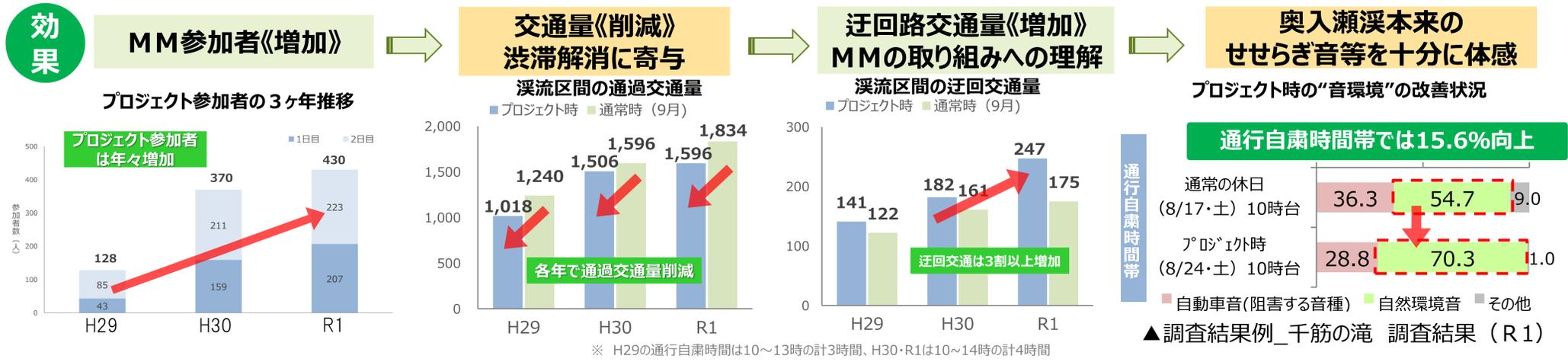
- 目的1 散策の安全性向上、環境負荷低減、音環境向上による観光地としての魅力向上
- 目的2 交通量の削減⇒観光渋滞の解消
- 目的3 協力を促す事で、地元や道路利用者の意識醸成



せせらぎ音の調査結果を掲載しPR



3ヶ年の取り組み結果 (R2はコロナウイルス感染拡大防止のため中止、R3は10月に実施予定)



将来に向けた動きとこれからの取り組み

- 将来に向けて
- ◆ MMを継続し、将来の歩く空間について理解促進を図る
 - ◆ 地域観光資源として「せせらぎ音を守る」ことを訴えていく ⇒体感してもらい、行動変容に繋げていくための地道な取り組み

- これからの取り組み
- ◆ 奥入瀬地域の目指すべき姿を示した『奥入瀬ビジョン』の具体化
 - ◆ 奥入瀬の未来のイメージの発信力強化(ブランディング) ⇒インフラアンバサダーの活用、若年層によるブランドカアップ情報戦略
 - ◆ 『歩く空間』(交通規制導入)の全国広報展開
 - ◆ 『天然の記念博物館』の運営に向けた関係者間協議等

【問い合わせ】
国土交通省 東北地方整備局
青森河川国道事務所
担当：調査第二課
木村(きむら)
017-734-4570(直通)
kimura-s82ab@mli.go.jp